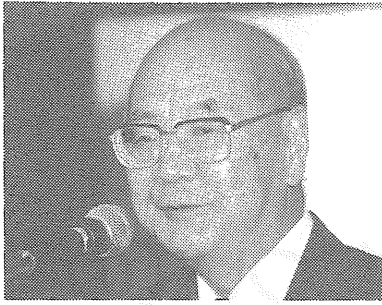


## 日本人と韓国人

元立教大学総長 松下 正寿



日本人と韓国人を比較して見ると中々面白い研究が出来そうである。現にそういう種類の本は沢山出来ているのではないか。ところで私はこの問題については、しろうとである。従って専門的知識を背景として語る資格がない。しかし、しろうとにはしろうととしての面白味があるはずである。その「はず」に便乗して若干私のしろうと論を展開して見よう。日本人と韓国人との関係は実に古い。神代にまでさかのぼれるのではないか。ところが両者の現在の関係は余り好ましいとは言えない。誰に聞いて見ても「私は韓国人を大好きだ」という話を聞いたことがない。「韓国人は大嫌い」から、「まあまあ」程度まで合わせて国民の70%位ではないか。隣国のうちそんな国があるうか。米国人とカナダ人は殆んど同国人のようであって差別はない。イギリス人とフランス人は長い間戦争をしていた国民どうしであるが、もっと御互いに尊敬し合っている。ドイツとフランスとはこれも長い間敵対関係にあったがこれももっと尊敬し合っている。日本人と韓国人のように憎み合っている民族は世界中どこにもいないのではないか。何故日韓両国民の感情はそんなに悪いのか。要するにハズミが悪かったのである。日本は丁度西洋諸国が植民地獲得を正に終ろうとしている時に目を覚まされた。最初に日本人の目を覚ましてくれたのがアメリカであったのは日本人にとって幸運であった。アメリカは国が広いし、人口が比較的少ないから植民地を持つことには関心が無かった。そのアメリカによって目をさまされ、初めて世界を眺めると世界は実にすさまじいところであった。世界は正に優勝劣敗で、弱い者は直ぐ

にも食われてしまう。そのかわり強い者は隣りを食ってもいい。そういうことが平気で行われる時代であった。明治の指導者たちはこの点をはっきりと見きわめ、急激な近代化を企てた。その中心をなしたのが後の伊藤博文公であった。明治政府は伊藤等極めて優秀な指導者の下に急激に、而も着々として近代化を進め、極めて短時間のうちに日本の近代化は成功した。その点において日本は隣りの韓国や清国(中国)と異っていた。中国も韓国もその伝統的東洋文化を誇り、近代化におくれた。かくして大国清国は小国日本に敗れたのである。従って日中間に介在する韓国に対する影響力は中国から日本に移転し、我が国が事実上韓国を支配するようになった。若しあの時日本が韓国を支配しなかったなら韓国はロシアによって支配されたであろう。露骨な優勝劣敗の時代がある。かくして韓国は日本に併合された。日本の統治政策は同化政策であった。一千万の韓国人を全部日本人にしようとした。これは今から見れば失敗であったが当時の風潮から見れば自然な考え方であった。しかしそれを失敗した。韓国語というものを無視し、日本語を強引に語らせるという無理は結局において成功しなかった。かくして歴史は日本の敗戦を語り、それに伴う韓国の独立をむかえることとなる。日本と韓国との間に近代化の点において大きな差があったことは事実である。この事実によって国力に大差がつき、時の流れである優勝劣敗の原則が働き日本は韓国を植民地化したのである。かくして日本は清国から得た台湾と共に朝鮮を加えて「大日本帝国」を建設した。ところで以上の記述は日本から見た日韓関係である。これを韓国の側から見たらどうなるか。

私は日本人であって、韓国人ではない。従って私は韓国人になって考えるということとは出来ない。ただ想像をして見るとこれほどイヤなことにはなかったのではないか。その意味において我々は韓国人の対日感を深める必要がある。ひとをいじめた者はすぐ忘れる。いじめられた者は絶対忘れない。我々は韓国人に対しては加害者であったの

である。しかし我々は韓国人に対し、卑屈感を持ってはいけない。世界の各人種、各民族は各々平等である。人種、民族の平等感はまだ世界の現実にはなっていない。これを達成するのが我々の任務であり、責任である。我々はこの立場から日韓問題を考える必要がある。

日本人と韓国人は平等である。しかし同一ではないし、同一であってははいけない。それではどういふ点で日本人と韓国人は違うか。日本人と韓国人との違いを指摘する前によく似ているところ、特に悪いところで、一つあげよう。どちらも大国民らしいところがない。どちらも気が短くて、こせこせしている。その点、我々日韓両民族は隣りの中国人と比較するとはっきり見劣りがする。中国人は実に大国民である。ゆったりしていて物に動じない。私など少年時代は中国人を「シナ人」と呼んで馬鹿にしたものだ。その「シナ人」がよく物売りに来た。我々少年はそれを追っかけて「シナ人！ シナ人！」と言って馬鹿にしたものだ。

ところが先方は平気なものでただニコニコして歩いて行く。私は口では「シナ人！」と言って馬鹿にしつつも心の中では尊敬した。どうもあの態度が我々には欠けていないか？ 第2に我々はいずれも器用である。おもちゃの様な物をつくって外国人に売りつけたりすることがうまい。しかし我々は大局に目をくばらない。だから朝から晩まで忙しく働くのはいいが、その割合には出世しない。どうもこの欠点に悩まされている限り我々日韓両国民共に世界で尊敬され得ない。早くこの欠点を直しておこう。

今でも日韓両国民を比べると日本人の方が進歩的で韓国人の方が保守的である。「長幼序あり」。東洋文化の源泉であるが、この美德は日本では既に過去のものになっている。ところがこの美德は韓国では日常のことになっている。この美德の在る限り東洋文化は続く。私は切に韓国人に対しこの美德を守って行くよう御願ひする。

地質調査／環境調査／測量／  
事業内容 土木設計／建築設計／施工管理／  
測定機器の研究開発・製作・販売

世界に通ずる技術の涵養

- 職員数 878名 技術士 122名
- 国内・事務所・支店17ヶ所 営業所・出張所20ヶ所  
研究所2ヶ所
- 海外支店・1ヶ所
- 海外関係会社 OYO INSTRUMENTS INC.

**OYO**  
株式会社応用地質調査事務所

取締役会長 深田 淳夫  
取締役社長 陶山 國男

東京都千代田区九段北4-2-6 <市ヶ谷ビル> 〒102  
TEL 東京 (03) 234-0811 (代)

●研究所 埼玉県浦和市太田窪2-2-19 / 〒336  
TEL 浦和 (0488) 82-5371 (代)

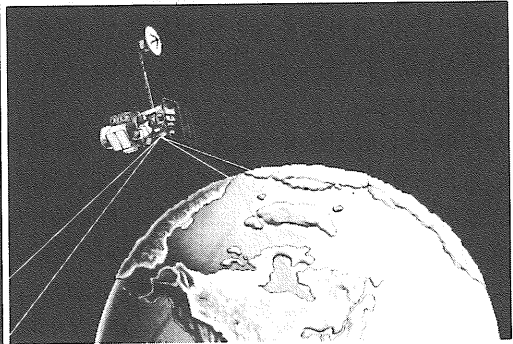
事務所 札幌・仙台・東京・静岡・名古屋・金沢  
滋賀北陸・大阪・岡山・高知・松山・  
広島・福岡

支店 千葉・埼玉・横浜・新潟・イギリス

情報は資源

地表を離れて、はるか上空から大地をとらえ、海を探る。航空写真撮影・リモートセンシングによって、ふだん見ることのできない地球の姿をありのままにとらえ、膨大な情報を得ることができます。

情報は来たるべき時代を切り拓くため欠くことのできない“資源”であるとパスコは考えます。パスコでは30年にわたる技術蓄積・経験と先進のコンピュータ技術を結合した総合的地理情報のシステム化に取り組んでいます。



- 地理情報システム開発
- 航空写真真測量
- 精密変動量計測
- リモートセンシング
- 自然条件調査・解析
- 環境アセスメント
- 土木計画・設計
- 都市計画・地域開発

総合地理情報の

**株式会社パスコ**

(旧社名 パシフィック 航業株式会社)

本社 〒153 東京都目黒区東山2-13-5 TEL. (03) 715-1621